

令和6年度市まちづくり経営指針

いわき市

総合政策部 政策企画課

「人づくり日本一」を実現し、誰もが「住んでよかった、住み続けたい」と思える魅力にあふれたいわきを目指します。

令和6年度に取り組む4つの柱とそれぞれの分野

01 次世代を育てる 45 事業

～ひと：地域人財の育成～






-  教育
-  子育て
-  地域づくり

02 命・暮らしを守る 31 事業

～安全安心の充実強化～






-  防災
-  医療
-  福祉/健康/地域共生社会

03 まちの魅力を高める 28 事業

～まち：地域価値の向上～






-  まち(市街地・中山間)
-  DX/GX
-  地域交通

04 豊かさを創る 37 事業

～しごと：地域産業の振興～



-  産業
-  農林水産
-  観光・文化・スポーツ

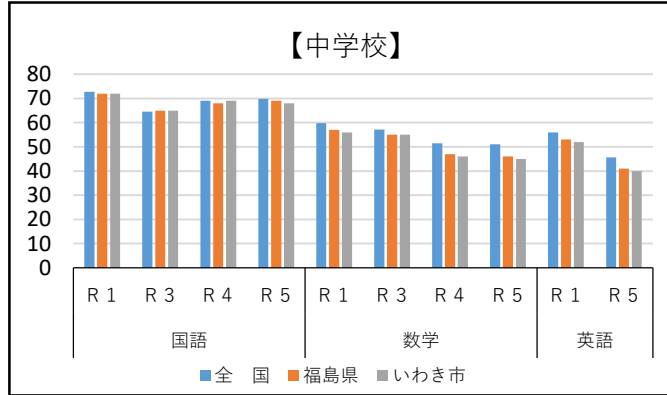
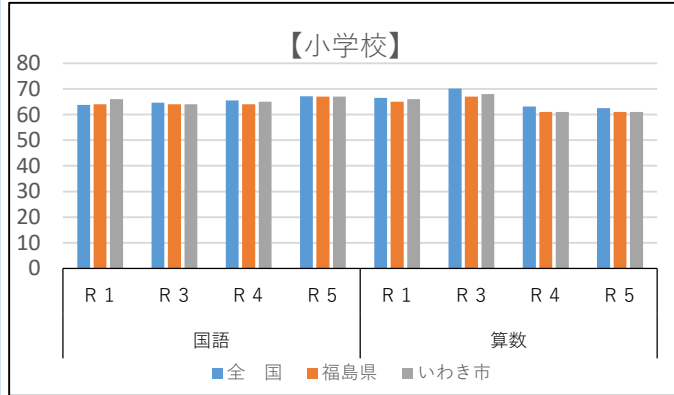
1. 次世代を育てる

教育

未来に夢を持ち、ふるさとを支え、日本を支え、世界に飛躍する人づくり

現状・課題

<全国学力・学習状況調査>



5年後の目標

本市の学力 **全国平均以上**
(中長期的には全国日本一を目指す)

自己有用感(※1)
全国平均以上

※1: 「自分にはよいところがある」「人から認められた」などの自己に対する肯定的な評価。

特に力を入れていく取組み

「学力向上」で「人づくり日本一」へ

学力向上チームと各学校の連携により、全国学力・学習状況調査等の結果を分析して、学校の実態に応じた学力向上策を推進。今後、分析対象を学校単位から学級単位に広げ、ワークショップ型教員研修を取り入れる等、さらに取組みを推進します。

困難を抱える子どもの学びの機会を確保します

支援を要する児童生徒に対する支援員の増員やスクールカウンセラーの教育相談の充実などにより、誰一人取り残さない教育環境を確保します。

具体的な取組み

学校教育環境の充実

・学力向上チームによる学力向上推進、GIGAスクール、教職員の働き方改革の推進、スクールバス、学校給食費の負担軽減

不登校や障がい等を抱える子どもの支援

・スクールカウンセラー、心の相談、不登校対策、いじめ根絶、特別支援教育、共に学ぶ環境の充実、多様な学び場の構築

地域との連携強化

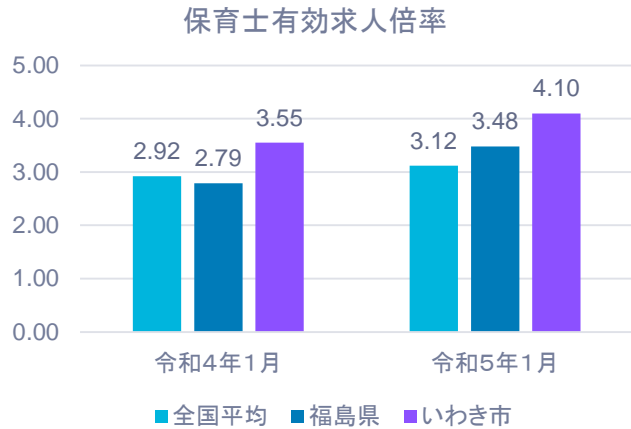
・学校・家庭・地域パートナーシップの推進、土曜学習の推進、コミュニティ・スクールの推進、キャリア教育の推進、いわきアカデミア、部活動地域移行の推進

1. 次世代を育てる

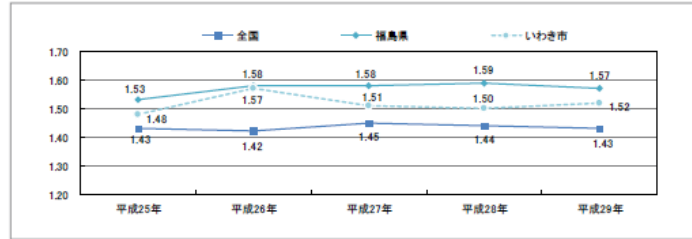
子育て

子どもまんなか笑顔と夢が広がるまち いわき

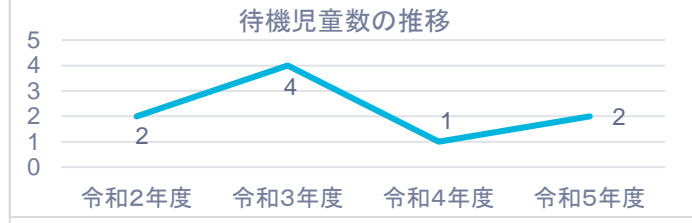
現状・課題



■合計特殊出生率の推移



資料：人口動態統計



5年後の目標

保育士有効求人倍率
全国平均

待機児童数 **ゼロ**

特に力を入れていく取組み

保育の質を確保・向上させます

保育士の宿舍借り上げ支援や合同事業者説明会、復職・就職支援研修会の開催により、保育人財の確保に努めるほか、職場環境においてICTツールの活用を検討するなど保育士の働き方改革を進め、保育の質を向上させます。

子育て支援情報の発信を強化します

「子ども・子育て支援サイト」をより見やすくリニューアルするとともに、子育て支援アプリの運用や、こどもみらいブックの配布などにより、子育て支援情報を積極的に発信し、安心して子育てができる環境づくりを強化します。

具体的な取組み

安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくり

- ・子育て・母子保健コンサルジュ、子育て情報の発信
- ・産前・産後サポート、不妊・不育対応

就労と子育ての両立支援

- ・放課後児童クラブの拡充、保育人財の確保

困難を抱える子ども・家庭支援

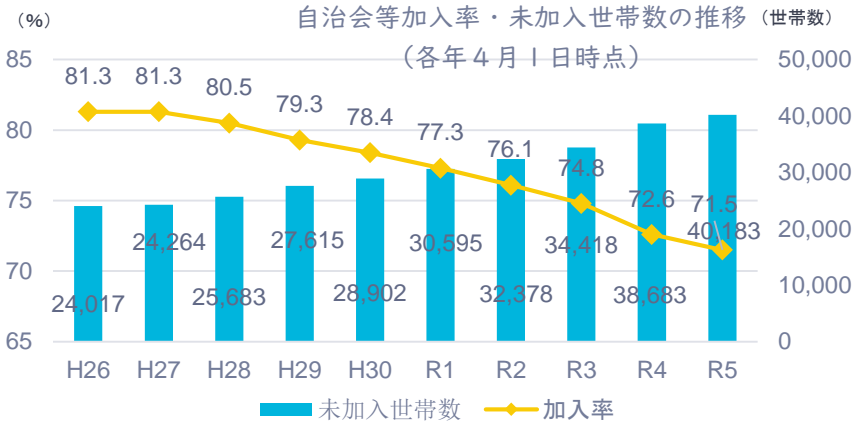
- ・統合保育、特別支援教育
- ・ひとり親家庭への支援、支援対象児童の見守り、ヤングケアラーへの支援、子ども食堂の運営支援

1. 次世代を育てる

地域づくり

みんなでつなぐ、地域の暮らし/若者の流出抑制・人財還流

現状・課題



R4移住者総数 757名(573世帯)



<高校生市内就職率>

	R2	R3	R4
就職内定者数	889	837	799
うち市内	639	589	604
うち市外	250	248	195
市内就職率	72%	70%	76%

5年後の目標

自治会等加入率 **71.5%維持**

移住者数 **70名**

(IWAKIふるさと誘致センター経由)

市内高校生市内就職率 **78%**

特に力を入れていく取組み

地域づくり活動を支援します

役員向けのICT研修の実施や運営支援員によるニーズ・課題調査などを実施し、自治会・町内会等の運営を支援するとともに、地域課題解決に自発的に取り組む市民公益活動団体の活動を支援します。

ふるさといわきへの就業を支援します

市内企業の業務内容や魅力の「見える化」を進め、大卒者に加え、高卒者やUターン希望者に対し発信し、流出抑制、人財還流を推進するとともに、人財確保に向けた市内企業の活動を支援します。

具体的な取組み

地域力の強化

- ・町内会の運営サポート、市民公益活動の促進、空き家対策、住宅セーフティネットの推進

人財還流とUIターン

- ・リビングシフトの促進、いわきアカデミアの推進、UIターンの促進（移住支援金）、ふるさといわきへの就業支援

雇用と若者流出抑制

- ・高校生の就職支援
- ・未来につなぐ人財応援奨学金返還支援
- ・F-REIと連携した人財育成

2. 命・暮らしを守る 防災

災害から命と財産を守る ～逃げ遅れゼロ、災害死ゼロを目指す～

現状・課題

【登録防災士】

- 登録者数 258名
- 年齢構成
最年少13歳、最高齢81歳
(平均55.5歳)
- 活動内容
 - ・平時
訓練の協力、防災講演会の講師など
 - ・災害時
高齢者避難呼びかけ、避難所開設、運営支援など

No.	地 区	自主防災組織		自主防災組織内への防災士の配置				
				1名配置		2名以上配置		配置なし
		組織数	結成率	組織数	配置率	組織数	配置率	組織数
1	平	106	96.6%	53	50.0%	19	17.9%	53
2	小名浜	46	77.9%	21	45.7%	11	23.9%	25
3	勿来	69	71.4%	26	37.7%	9	13.0%	43
4	常磐	30	56.0%	10	33.3%	6	20.0%	20
5	内郷	25	66.7%	13	52.0%	2	8.0%	12
6	四倉	30	100.0%	12	40.0%	5	16.7%	18
7	遠野	11	100.0%	3	27.3%	3	27.3%	8
8	小川	16	76.5%	3	18.8%	1	6.3%	13
9	好間	21	95.6%	7	33.3%	1	4.8%	14
10	三和	11	100.0%	5	45.5%	3	27.3%	6
11	田人	9	100.0%	2	22.2%	0	0.0%	7
12	川前	16	100.0%	1	6.3%	0	0.0%	15
13	久・大	13	100.0%	4	30.8%	4	30.8%	9
合 計		403	81.3%	160	39.7%	64	15.9%	243

5年後の目標

登録防災士登録者数 **600人**

防災士が2名以上所属する
自主防災組織 **403 (100%)**

自主的に年1回以上訓練する
自主防災組織 **100%**

特に力を入れていく取組み

地域防災力の向上と流域治水対策を進めます

防災士の養成、防災士と自主防災組織との連携等をさらに強化し、地域の防災力を高めます。また引き続き、県と緊密に連携し、河川改良などの流域治水対策に取り組みます。

防災・災害対応のDXを推進します

新防災情報システムの構築に合わせ、情報収集・伝達手段やシステム等を見直すとともに、消防団の迅速的確な活動をサポートするための消防団専用アプリを導入し、「逃げ遅れゼロ、災害死ゼロ」の実現を目指します。

具体的な取組み

自助の力を高める

防災マップの活用広報、出前講座、標語コンテスト
原子力防災に関する理解促進

共助の力を高める

防災士養成講座、登録防災士制度の普及
民間事業者等との災害対策に関する連携協定

公助の力を高める

災害時の非常用備蓄品の整備
避難行動要支援者支援、災害情報システム整備

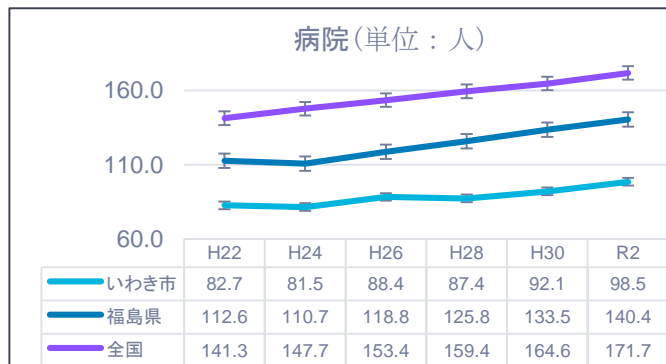
2. 命・暮らしを守る **医療**

医療確保と将来人財の育成

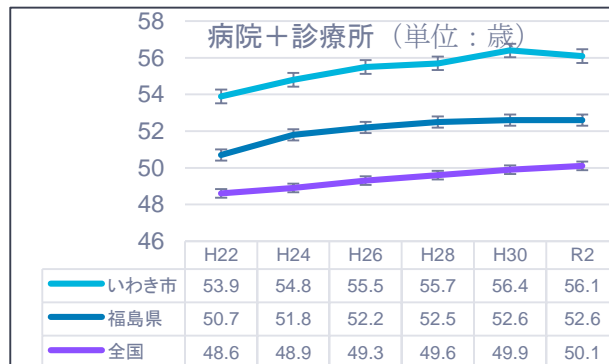
現状・課題

市内高校からの医学部医学科進学者数 R3:14人 R4:7人

<人口10万人あたりの医師数>



<医師平均年齢>



※救命救急センター、脳神経外科、循環器内科、眼科、小児科、麻酔科などに新規に医師着任

5年後の目標

人口10万人あたりの
病院勤務医師数 **120人**
(10年で県平均を目指す)

医師の平均年齢 **54歳**
(10年で県平均を目指す)

市内高校からの
医学部医学科進学者数 **20人**

特に力を入れていく取組み

将来の医療人財を育てます

本市は医師不足だけでなく、医師の高齢化も課題です。将来の医療人財を育成するため、小学生から研修医まで切れ目なく、「医療を学ぶ」「医療を育てる」ための取組みを展開します。

医師不足解消に粘り強く取り組みます

「いわき市医療構想会議」を中心に検討を重ね、本市の医療の現状を分析し、医師数及び年齢について、県平均レベルを目指します。

具体的な取組み

医療人財の育成

- ・小中高生向けの医療人財育成
- ・医学部に合格した高校生向けの地域医療ガイダンス
- ・医学生向け地域医療セミナー
- ・研修医が地域医療を学ぶ場の提供

医師の確保

- ・医師招聘活動の強化
- ・大学医学部に寄附講座を開設
- ・病院医師修学資金の貸与

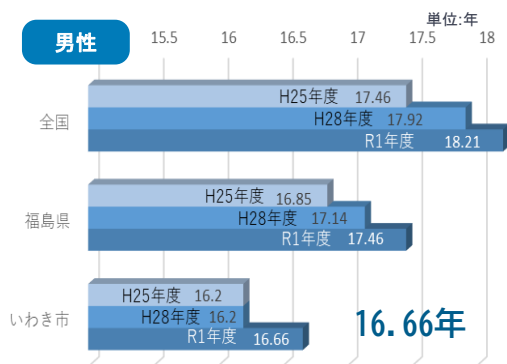
2. 命・暮らしを守る

福祉/健康/地域共生社会

住み慣れた地域で共に生き、支え合い、誰もが安心して、健康で自分らしく暮らせるまち

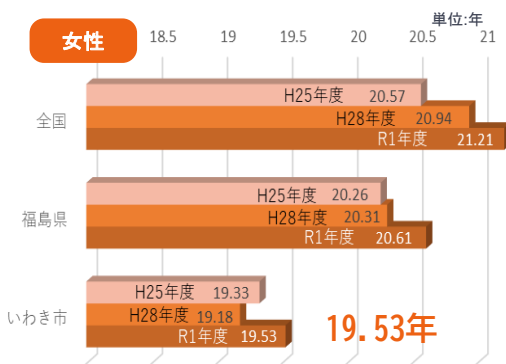
現状・課題

<お達者度>



県内13市でワースト1位

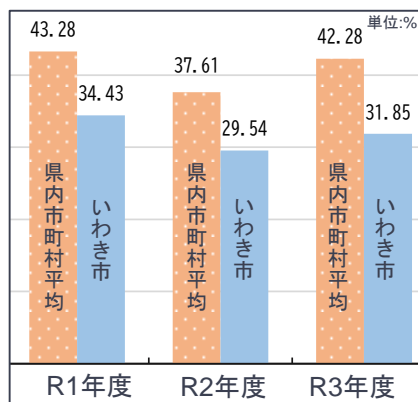
16.66年



19.53年

※お達者度：65歳の平均自立期間（介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間）

<市国保特定健診受診率>



県内13市でワースト1位

5年後の目標

健康寿命(お達者度)
ワースト1位脱却

国保特定健診受診率
ワースト1位脱却

特に力を入れていく取組み

地域共生社会の実現に向け体制を整えます

従来の分野別の福祉サービスだけでなく、様々な機関が「断らない相談支援」を念頭に、ワンストップ相談など、包括的な支援体制を構築します。

健康課題の解消に向け、官民が連携します

共に創る健康づくり推進条例や健康いわき21に基づき、若年からの生活習慣病予防対策や企業連携等による壮年期の健康づくり、事業者の健康経営を推進します。

具体的な取組み

地域共生社会の実現

- ・重層的支援体制の整備
- ・福祉介護人財の定着支援
- ・地域共生社会に向けた模範活動への支援
- ・外国人が住みやすいまちづくり

健康長寿の実現

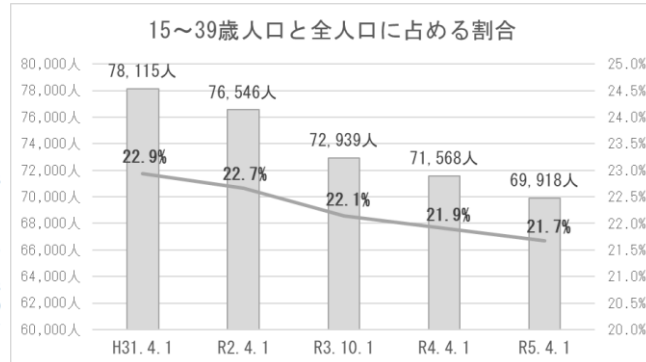
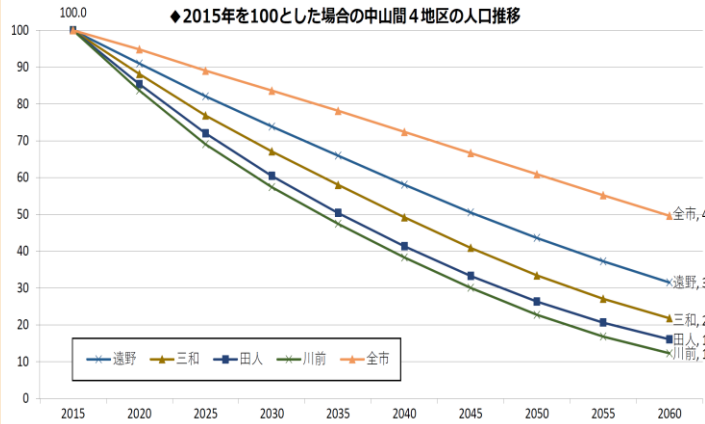
- ・生活習慣病の予防・改善に向けた、運動や食・栄養に関する取組み
- ・中学生に対する脂質・血糖検査や個別健康相談、健康教育授業を一体的に実施

3. まちの魅力をも高める

まち（市街地/中山間）

未来に誇れる都市への挑戦/里山の恵みと文化の維持・継承

現状・課題



5年後の目標

若い世代（15歳-39歳）の人口割合 **20%維持**

中山間地域における小さな拠点形成件数 **5件**

特に力を入れていく取組み

いわき駅周辺の都市機能集積と地域の市街地再生を進めます

いわき駅周辺が生まれ変わります（並木再開発、北口開発など）。地域の市街地の再生整備も引き続き進めます。

中山間地域の持続可能な生活を支援します

医療・介護・福祉、地域交通などの生活サービス機能を集積した小さな拠点の形成・運営を支援するほか、アウトリーチ型市民サービス（お出かけ市役所）、交通（各地域に応じた共創型地域モデル）、医療（ヘルスケアアプリ「HELPO」）などにより、持続可能な生活を支えます。

具体的な取組み

ネットワーク型コンパクトシティの実現

- ・いわき駅周辺の開発、市街地の再生整備、中心市街地活性化

快適な都市空間の提供

- ・公園の利活用（21世紀の森公園、パークPFI）、自転車道路網の整備

持続可能な中山間地域づくり

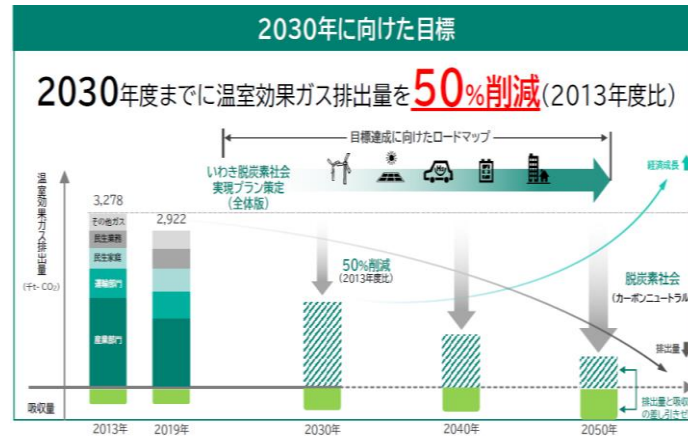
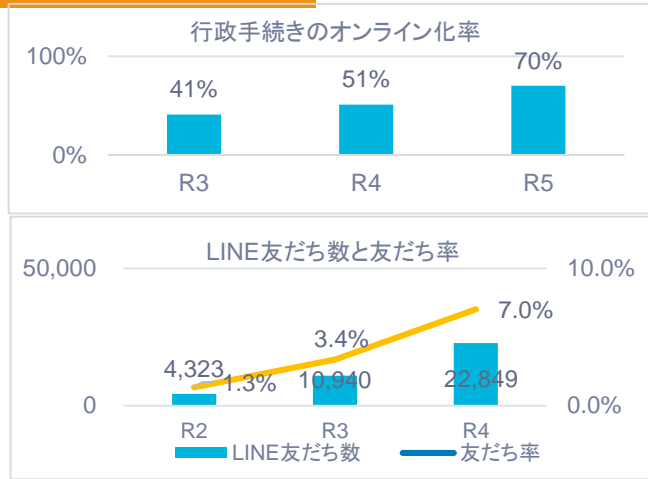
- ・里山の暮らしを支える地域づくり方針の推進
- ・地域おこし協力隊、中山間地域集落支援員の推進
- ・中山間地域の魅力発信、小さな拠点形成支援

3. まちの魅力を高める

DX/GX

DX、GXへの投資

現状・課題



5年後の目標

行政手続きオンライン化率
実質100% (※)
※年間申請件数1,000件未満の手続きやオンライン化できないもの等を除く

温室効果ガス削減割合
50% (2030年) ※2013年度比

カーボンニュートラル賛同団体
1,400団体

LINE友達率 **23%**
(中核市トップテンの友だち率)

特に力を入れていく取組み

スマートシティ化を加速させます

企業や学術機関等との連携・共創のもと、AIやIoTなどの先端技術の活用をはじめ、ビッグデータの利活用やDXの推進、新たな社会に対応する人材の育成などの取組みを進め、様々な地域課題を解決し、市民が豊かに暮らすことができる地域社会を構築します。

2050年までに脱炭素社会を実現します

行政・市民・事業者・関係団体の主体的な取組みに加え、脱炭素化・環境保全に関する意識醸成、中小企業の脱炭素化支援を実施し、2050年に市内全体からの温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指します。

具体的な取組み

スマートシティと行政DX

- ・Society5.0の推進、スマートタウンモデル
- ・行政手続きオンライン化、キャッシュレス、ペーパーレス、リモートワーク
- ・ソーシャルメディアを活用した情報発信、チャットボットの導入など、時代に対応した広報

脱炭素化の推進

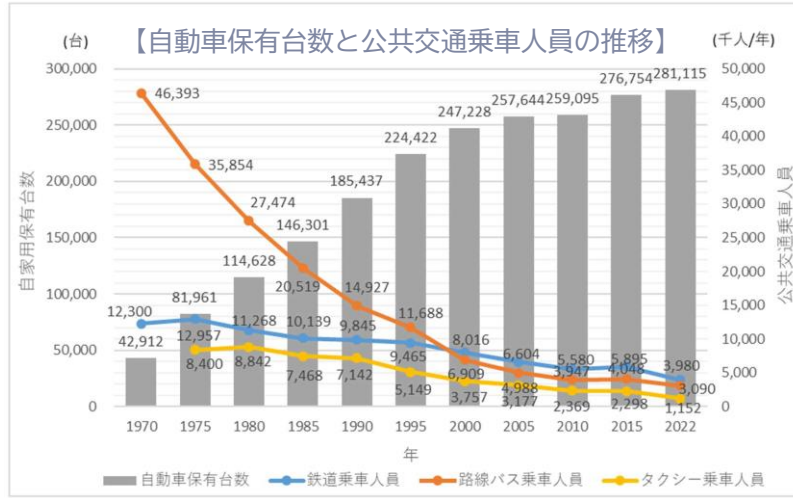
- ・普及啓発や環境教育を通じた環境意識の醸成、ライフスタイルへの再生可能エネルギー関連設備等の導入支援、企業への脱炭素化支援など
- ・カーボンニュートラルポート、スマートタウンモデル地区の推進

3. まちの魅力を高める 地域交通

都市づくりと連携し、市民の足として、誰もが利用しやすい公共交通の実現

現状・課題

【地域公共交通計画：施策の展開例】



5年後の目標

- 路線バスの利用者数 (主要幹線系統) **700,000人/年**
- 鉄道交通利用者数 **13,000人/日**
- 公共交通不便地域 支援実施地域数 **6地区**

特に力を入れていく取組み

選ばれる公共交通を構築します

運賃、ダイヤの最適化を進めるとともに、多様な移動手段と連携して利便性、採算性の向上を図ります。また、将来の公共交通ネットワークを見据えた持続ある路線バスへの最適化を進めます。

セーフティネットとなる公共交通を確保します

地域の輸送資源を総動員して各地域の移動ニーズに応じた共創型の移動サービスを産学官民連携のもとで検討・導入を進めます。

具体的な取組み

公共交通の活性化

- ・路線バスの最適化 (系統再編、ダイヤ・運賃の見直し)
- ・鉄道交通活性化 (常磐線、磐越東線)

公共交通不便地域等の移動手段の確保

- ・ボランティア輸送の継続、高度化
- ・福祉と連携した自家所有償旅客運送
- ・タクシーを活用した域内交通確保事業

4. 豊かさを創る

産業

変化に強い企業づくりと産業界が求める人財の育成・確保

現状・課題

創業期の支援

資金調達・資金繰り

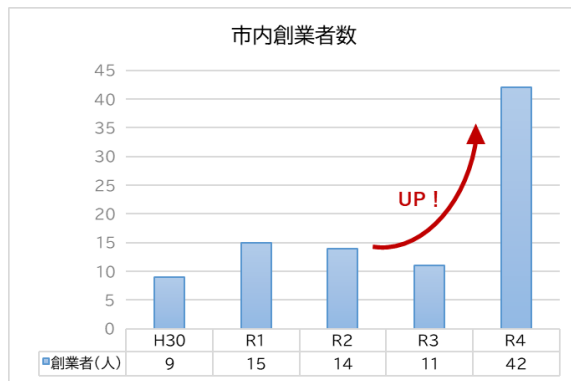
◆資金面をサポート！

経営に必要なノウハウの不足

◆知識習得等をサポート！

顧客・販路の開拓

◆販路開拓をサポート！



新事業展開を後押し



◆経営革新にチャレンジ！

	R4
事業再構築補助金	42件
外部人材活用	8社
経営改善	9社

5年後の目標

市内創業者数
140人 (28人/年)

経営革新にチャレンジする企業数
130件/年間

特に力を入れていく取組み

スタートアップや新事業展開を後押しします

創業から、成長・成熟、事業の再生に至るまで、チャレンジする企業のニーズを踏まえた支援策を展開するとともに、企業や本社機能の誘致などにも取組み、産業の新陳代謝と稼ぐ力の向上を進めます。

産業人財の確保に幅広い観点から取り組みます

産業人財の確保に向け、官民連携による新たな産業人財育成の取組みの推進や、能力を発揮できる職種の創出、高い賃金の実現などの魅力的な働く場の創出などに取り組みます。

具体的な取組み

新陳代謝、稼ぐ力の向上

- ・スタートアップ支援、新産業創出支援、事業リノベーション促進、事業リストアート支援
- ・風力産業・バッテリー産業の推進、グリーンイノベーション創出支援
- ・市内企業とF - R E I の連携の促進
- ・本社機能の誘致

産業人財の確保・育成

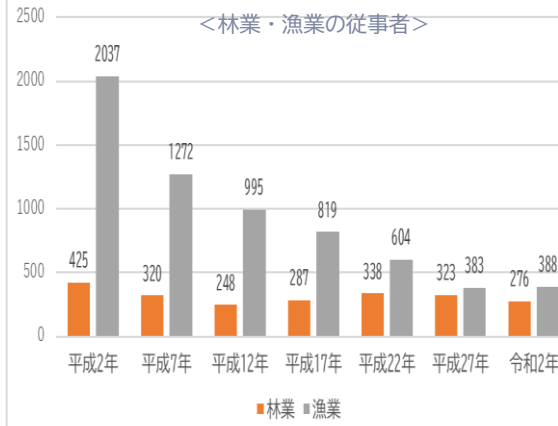
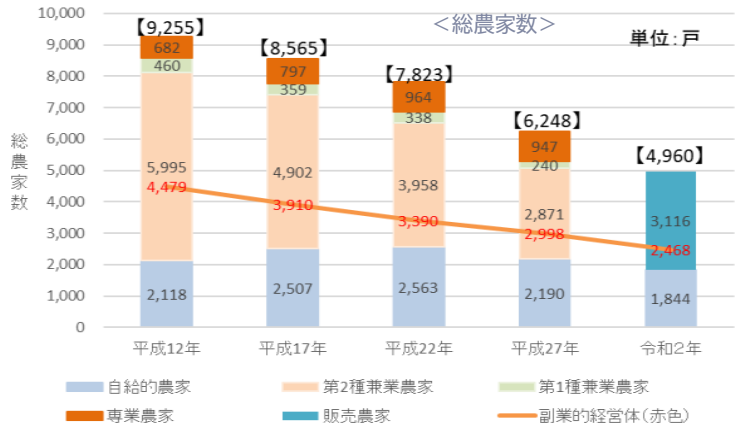
- ・産業人財育成支援（デジタル、脱炭素、経営者育成など）
- ・ふるさといわきへの就業支援、生産性向上・ダイバーシティの推進
- ・風力やバッテリーなどの新産業人財の育成

4. 豊かさを創る

農林水産

持続と自立が可能な「稼げる一次産業」の推進

現状・課題



5年後の目標

新規就農者数 10人/年

林業新規就業者数 3人/年

常磐もの愛好層(首都圏) 80%
※アンケート対象者における愛好層の割合

特に力を入れていく取組み

戦略的にブランド化を進めます

振興作目を中心とした農産物の生産量の増大、高品質・高付加価値化を支援することにより、地域間競争の優位性を確保するためのブランド化と本市農産物のプロモーションを進めます。

水産業のさらなる復興を後押しします

震災を乗り越え、次世代につながる水産業を目指し、地産地消を基本とした消費及び販路拡大、さらには原子力災害による風評被害の払拭に加え、ALPS処理水放出による影響を見極めながら、「常磐もの」の安全性や魅力の発信などについて、引き続き取り組みます。

具体的な取組み

経営体の育成・強化

- ・福島大学食農学類との連携推進
- ・農業生産振興ブランド戦略プラン推進事業補助金
- ・林業における担い手育成の支援

魅力の発信と価値観の共有

- ・いわき農林水産物風評被害対策(魅せる課事業)
- ・学校給食魚食普及推進、常磐ものブランド力強化

資源や多面的機能の維持・保全

- ・いわき産木材利用推進、森林経営管理
- ・間伐材利用促進

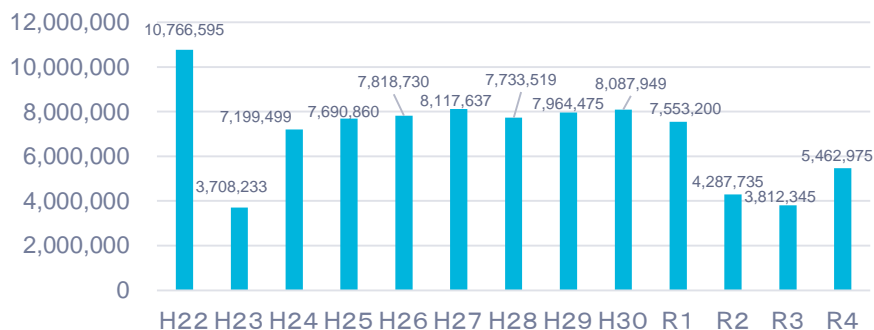
4. 豊かさを創る

観光/文化/スポーツ

街に元気と賑わいを、心に潤いと栄養を

現状・課題

<観光入込客数>



<文化施設入館者数>
※R2より新型コロナウイルスの影響あり

R2	R3	R4
293,658	353,300	503,096

トップスポーツイベント観客数
R4:76,790人

5年後の目標

観光入込客数 **850万人/年**

文化施設(※1)の
年間入館者数 **100万人/年**

トップスポーツイベント
観客数 **10万人/年**

※1：いわき芸術文化交流館、いわき市立美術館、草野心平記念文学館・生家、アンモナイトセンター、考古資料館、暮らしの伝承郷

特に力を入れていく取組み

持続可能な観光振興に取り組みます

震災や原発事故、さらにはコロナにより減少した観光入込客数を回復させるため、持続可能な観光振興を目指して、教育旅行・コンベンションの誘致やサイクルツーリズム、さらにはインバウンドの誘客などに積極的に取り組みます。

文化・スポーツの魅力で地域を元気にします

フラ文化や歴史遺産、スポーツの盛り上がりなど、地域の活力を生かし、フラガールズ甲子園に対する支援や全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会、ラグビー、バレーボールなどのトップリーグの開催支援による、文化・スポーツの人づくり・まちづくりを進めます。

具体的な取組み

観光・ツーリズムの強化

・教育旅行・コンベンション等の誘致促進、サイクルツーリズム、観光まちづくりビューローとの連携強化、インバウンドの誘客強化

地域文化の醸成

・フラガールズ甲子園、いわきデジタルミュージアム、いわきが生んだ著名芸術家による人づくり

スポーツの魅力発信

いわきFCとの連携、スポーツイベント開催支援、トップアスリート養成、いわきサンシャインマラソン